

1



2

はじめに

- 小平市では、文化振興の基本方針を策定するにあたり、広く市民の意見を聞くため平成17年11月に公募による市民委員会を発足させ、平成18年1月から11月まで、二月に1回の割合で合計6回の検討会を開催し、さらに市内の文化施設の視察も行い、小平市における文化行政の現状を正確に把握するとともに、その問題点や課題を明らかにしながら、今後の小平市の文化振興を図る上での、その方向性や文化行政のあり方について協議してきた。

3

目次

市民委員会の目的	4
文化の必要性と範囲	6
小平市の特長	8～16
小平市文化振興の課題	17～41
基本理念	43
基本目標	44
基本施策	45～50
施策の体系図	51
小平市文化振興財団のあり方	52～55
まとめ	56～57

3

4

市民委員会の目的

『文化振興を取り巻く環境の変化』

- 文化芸術振興基本法(平成13年12月公布)
- 指定管理者制度の導入(平成18年4月)

市民の意見

小平市の文化振興のあり方考える

4

5

■市民委員会の目的

市民委員会発足の背景

物質的な豊かさから心の豊かさを求める時代となり、心豊かな活力ある社会の形成には文化や芸術の果たす役割は大きく、国では、文化芸術への国民的な意識の高まりから、平成13年12月に文化芸術振興基本法を制定しました。

また平成15年には地方自治法の改正で公の施設の管理に指定管理者制度の導入があり、小平市でも18年度からルネこだいらで導入されています。

このように文化をとりまく環境の変化から、小平市では市民の皆さんの意見を聞きながら、小平市の文化振興の基本方針を策定することになり、小平市の文化振興を考える市民委員会を立ち上げました。

6

文化の必要性と範囲

- 人間が人間らしく生きる糧
 - 人生を豊かにする 感動を通して人間の感性を育てる
- 共に生きる社会の基盤の形成
 - 他者に共感する心 人間が協働し共生する社会
- 質の高い経済活動の実現
- 世界平和の礎

文化の範囲・・・芸術文化、芸能、文化財、文化にかかる市民活動、国民娯楽、歴史、自然、都市景観など

7

■文化の必要性と範囲

文化には人生を豊かにする、感動をとおして人間の感性を育てるなど人間が人間らしく生きる糧となり、他者に共感したり、思いやる心、人に尽くす心を醸成し、人間が協働し共生する社会の基盤を形成します。また質の高い文化の提供による経済活動や国際交流や多文化理解をとおして世界平和の礎となるなどの効用があります。

ここで扱う文化の範囲は、芸術文化(音楽、美術、演劇、その他の芸術)、芸能(能楽、歌舞伎、落語、歌謡、その他わが国古来の伝統的な芸能)、文化財(有形及び無形の文化財並びにその保存技術)、文化にかかる市民活動(公民館、地域センターなどで活動する茶道、書道、その他生活にかかる文化)、国民娯楽(囲碁、将棋、その他国民的娯楽)、自然、歴史、都市景観などとなります。

8

小平市の特長

- 恵まれた自然環境と充実した施設
 - A 若さあふれる学園都市
 - B 緑あふれる自然環境
 - C 文化の発信拠点
 - D 文化意識を高める多彩なプログラム
 - E 歴史と伝統


8

9

小平市の特長

A 若さあふれる学園都市

- 大学・高校が多い
- 学生が多い街
- 市民に開かれた大学等の公開講座
- 大学と市が連携
- 大学と地域のつながり

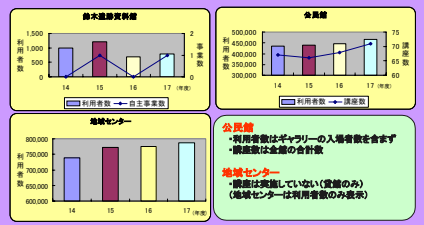


9

1 3

小平市の特長

文化施設利用状況等2-2



- 公民館**
 - ・利用者数はファミリーの入場者数を含まず
 - ・設置数は全館の合計数
- 地域センター**
 - ・設置は実施していない(費額のみ)
 - (地域センターは利用者数のみ発表)

1 0

小平市の特長

B 緑あふれる自然環境

市内を一周できる緑豊かなグリーンロードのハイキングコース


- ・武蔵野の面影を残す雑木林
- ・多くの畑が点在する市街地



1 4

小平市の特長

市内の文化施設

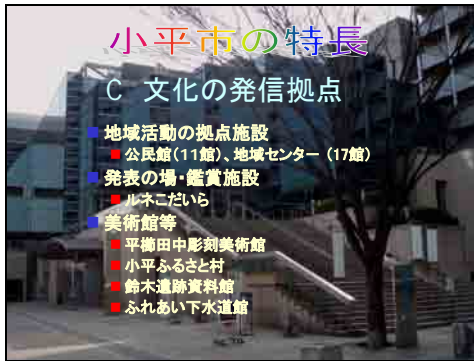


1 1

小平市の特長

C 文化の発信拠点

- 地域活動の拠点施設
 - 公民館(11館)、地域センター(17館)
- 発表の場・鑑賞施設
 - ルネこだいら
 - 美術館等
 - 平樹田中彫刻美術館
 - 小平ふるさと村
 - 餘木遺跡資料館
 - ふれあい下水道館




1 5

小平市の特長

D 文化意識を高める多彩なプログラム

- 公民館等で各種の講座等を実施
- ルネで各種の自主事業を実施
- 「齋藤素巖・彫刻の小径(グリーンロード)」
- 皆で創る市民まつり

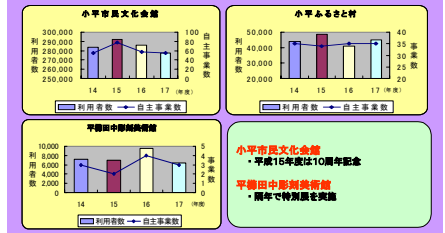


15

1 2

小平市の特長

文化施設利用状況等2-1



- 小平市民文化会館**
 - ・平成15年度は10周年記念
- 平樹田中彫刻美術館**
 - ・周年で特別展を実施

1 6

小平市の特長

E 歴史と伝統

- 歴史遺産
 - 玉川上水・野火止用水
 - 旧家の居宅
- 貴重な遺跡
 - 鈴木遺跡
- 郷土の伝統芸能
 - 鈴木ばやし
- 民具を収集・保存



16

1 7

小平市文化振興の課題

- a. 次代を担う青少年の健全な育成
- b. 人材の発掘・活用
- c. 産学との連携
- d. 文化の継承
- e. グリーンロードと文化施設
- f. 国際交流
- g. 小平市のPR

17

2 1

小平市文化振興の課題

b.人材の発掘・活用

- 活かされていない小平市民の活力

21

1 8

小平市文化振興の課題

a.次代を担う青少年の健全な育成

- 子どもたちへの情操教育が不十分
- 子どもの芸術文化に触れる機会が少ない
- 親や大人たちの文化と教育への意識の希薄さ

18

2 2

小平市文化振興の課題

b.人材の発掘活用

市民委員会の意見

- 市内在住の芸術家の作品を紹介する機会
- 団塊の世代の経験・能力の活用
- 住民個々の能力の発掘・活用
- 学生ボランティアの活用

22

1 9

小平市文化振興の課題

a.次代を担う青少年の健全な育成

市民委員会の意見

- 子どもと文化芸術をつなぐ機会の充実
- 地域・家庭・行政で連携した子どもの文化芸術環境の整備
- 授業での文化施設の活用

19

2 3

■b.人材の発掘・活用

【市民委員会の意見】

- 小平市内の芸術家の中には、その作品を発表する機会が少ない人が多い、その作品の発表機会を増やしていき、小平の文化振興につなげるとよい。
- 団塊の世代の退職をひかえ、長年の勤務により培った知識、経験、ノウハウの活用を模索していく必要がある。
- 小平市民には多種多様な能力を持った人がいる。その人たちが持つ能力を小平の文化振興に活かしていけない。
- 小平には多くの特色ある大学や学校がある。そこに通学する学生の若い力で小平の文化振興を盛り上げていけない。

2 0

■a.次代を担う青少年の健全な育成

【市民委員会の意見】

- 文化には人への思いやりや人に尽くす心を醸成する力があり、多感な子どもの頃に優れた芸術文化に触れることは、情操教育として重要である。それゆえに、子どもの芸術文化に触れる機会の充実が必要である。
- 子どもを優れた芸術文化に触れさせるには、子どもを取り巻く大人の協力が不可欠である。そのためには大人が子どもの芸術文化に触れる機会の大切さを認識することが重要であり、大人の意識改革も含めた、子どもが容易に芸術文化に触れられる環境を整備することが重要である。
- 小平には鈴木道跡資料館やふれあい下水道館などの素晴らしい文化施設がある。それらを授業で使用することは、子どもが小平の文化に接する機会を作ることにつながる。

2 4

小平市文化振興の課題

c.産学との連携

- 活かされていない他の機関の能力
- 大学と文化施設の連携が弱い
- 都心に向いている学生の意識

24

2 5

小平市文化振興の課題

c.産学との連携

市民委員会の意見

- 連携における双方向での協力
- 地域の学生の意識を小平市へ向ける工夫
- 大学・学校との設備と人材の利用

25

2 6

■c.産学との連携

【市民委員会の意見】

- 産学との連携においては一方的に行政から要求するのではなく、場所の提供などを行い、双方向の連携にしていくことが望ましい。
- 小平市には多くの大学・学校があるが、そこに通学する学生の意識は小平市へ向いていない。大学・学校との連携において学生の力を活用するには、学生の意識を小平市へ向ける必要がある。
- 大学・学校の持つ人材・設備を活用していくことが望ましい。

2 7

小平市文化振興の課題

d.歴史・伝統文化の継承

- 先人の素晴らしい知恵、財産の活用が不十分
- 転入者の小平の歴史・伝統文化への認知度が低い

27

2 8

小平市文化振興の課題

d.歴史・伝統文化の継承

市民委員会の意見

- 歴史遺産・伝統文化を味わえる機会の提供
- 小平の古きよきものの再発見と活用
- 新しい入居者や市外への小平の歴史・伝統文化の紹介

28

2 9

■d.歴史・伝統文化の継承

【市民委員会の意見】

- ふるさと村や鈴木遺跡資料館などの文化施設を利用した、小平の歴史遺産・伝統文化に触れる機会の提供をしてはどうか。例えば、鈴木遺跡資料館の文化財をルネこだいらに展示するなどの工夫が考えられる。玉川上水についても子どもを含め、多くの市民に味わってもらえるとよい。
- 小平の文化として鈴木ぼやしや權うどんが比較的名産であるが、他にも古くからお茶の文化や竹籠などの竹細工があり、そういったものを再発見し活用していく必要があるのではないか。
- 小平への新しい入居者には小平の歴史や文化を詳しく知らない人が多い。市外も含めて、そういった人たちへも小平の歴史や文化を紹介していく必要がある。

3 0

小平市文化振興の課題

e.グリーンロードと文化施設

- つながりの弱いグリーンロードと文化施設
- 文化施設の知名度の低さ

30

3 1

小平市文化振興の課題

e.グリーンロードと文化施設2-1

市民委員会の意見

- 施設間の情報の連携
- ルネこだいらを中心とした文化振興
- ルネこだいらの貸出し方法の工夫
- 文化施設へのアクセスの検討
- 美術館等での企画展の開催
- 他の文化施設を利用した鈴木遺跡のPR

31

3 2

■e.グリーンロードと文化施設2-1

【市民委員会の意見】

- ふるさと村で鈴木遺跡の紹介をするなどして、文化施設の間で情報の連携をしたほうが、市民へのPRになるのではないかと。
- 文化施設の運営については改善の余地がある。ルネこだいらを中心とした小平の文化振興を進めていく必要がある。
- ルネこだいらの貸出し方法の工夫により、利用率の向上をはかるべきである。
- コミュニティバスが各文化施設を全てまわるようにした、文化施設へのアクセスをまちづくりといった大きな視点から考えなおすべきである。
- 平瀬田中美術館では企画展によって入館者が増えている。さらに企画展の回数を増やしてはどうか。
- 鈴木遺跡は素晴らしいものであるが認知度が低い。他の文化施設も利用して、鈴木遺跡を多くの人に知ってもらうべきである。

3 3

小平市文化振興の課題
e. グリーンロードと文化施設2-2

市民委員会の意見

- グリーンロードと文化施設のPR
- 適正な受益者負担の検討
- 文化施設の案内の工夫
- グリーンロードに休憩施設
- 小平のシンボルとなるグリーンロード
- グリーンロードと文化施設を一体とした活用

33

3 4

■e.グリーンロードと文化施設2-2

【市民委員会の意見】

- こだいらには素晴らしい文化施設やグリーンロードがあるが、まだまだ市民に認知されていない、PR活動をしていく必要がある。
- 文化活動の拠点が無料であることは助かるが、市の財政が厳しいことも考えると、文化施設の利用の受益者負担を検討する余地がある。
- グリーンロードと文化施設を合わせた案内図があると便利である。さらに、文化施設にわかりやすい看板などの標示があるとよい。
- グリーンロードの利用者のために休憩施設を作ってはどうか。
- グリーンロードは小平のシンボルともいえる。
- グリーンロードと文化施設を一体にして利用できるようにし、文化施設でグリーンロードの歴史や動植物が学べるとよい。

3 5

小平市文化振興の課題
f. 国際交流

- 多文化共生社会への取り組みが不十分
- 国際交流協会の認知度が低い

35

3 6

小平市文化振興の課題
f 国際交流

市民委員会の意見

- 子どものころから人種・国境・言語・宗教・思想の違いを超えて理解し合うことが多文化共生社会の構築につながる
- 国際交流協会のPRの必要

36

3 7

■f.国際交流

【市民委員会の意見】

- 子どものころから人種・国境・言語・宗教・思想の違いを超えて理解し合う機会を持つことが多文化共生社会の構築につながるのではないかと
- 国際交流協会はさまざまな取組みを行っているが、まだ十分に市民に認知されていない、PRの方法を考える必要がある。

3 8

小平市文化振興の課題
g.小平市のPR

- 小平市の誇れる部分の発信が不十分

38

3 9

小平市文化振興の課題
g.小平市のPR

市民委員会の意見

- ブルーベリー発祥の地、小平のPR
- 文化のPRの場としての文化施設の活用
- 新しい小平特有のものの育成とPR
- 小平のあらゆる面でのPRが必要

39

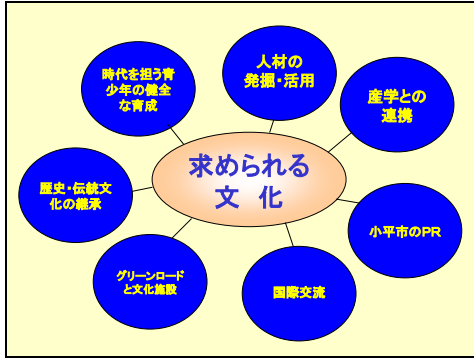
4 0

■g.小平市のPR

【市民委員会の意見】

- 現在、全国的に広がっているブルーベリーは小平が発祥の地である。このブルーベリーをPRすることは小平を全国的にPRすることにつながるのではないかと。もっとブルーベリー発祥の地小平をPRしていくべきである。
- 小平にある多くの文化施設を利用して、小平の文化をもっとPRすべきである。
- 小平特有のものを今から創り上げてPRしても遅くないのではないかと。
- 小平には素晴らしいものが多いのに、世間に認知されていない。あらゆる面でPRの方法を考え、PRをしていく必要がある。

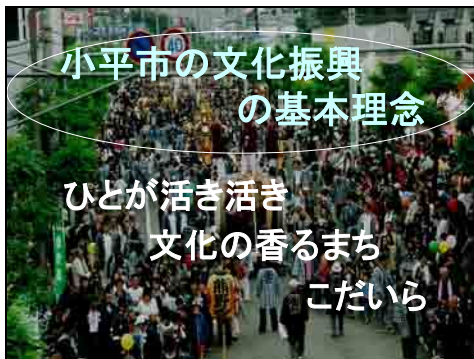
4 1



4 2

■ 小平市の文化の特長や求められる文化は何かを検討することにより小平市における文化振興の基本理念、基本目標、基本施策を考えました。
ただし、これを絶対的なものとして位置付けるのではなく、多様な価値観を前提に一つの例として示したものです。

4 3



4 4

基本目標

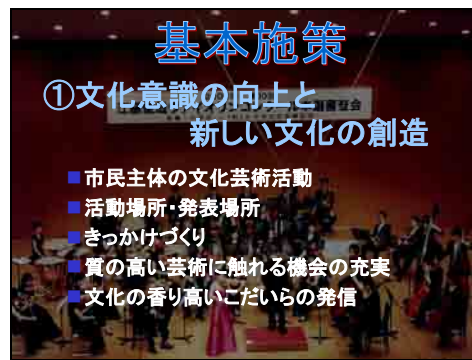
- 文化の香り高いこだいらの創造と発信
- 文化遺産の保存と活用をめざす

4 5

基本施策

- ① 文化意識の向上と新しい文化の創造
- ② 歴史、伝統文化の継承
- ③ 青少年の健全な育成と文化
- ④ 国際交流の促進と文化
- ⑤ 学園都市としての文化の発展
- ⑥ 人材の発掘・活用

4 6



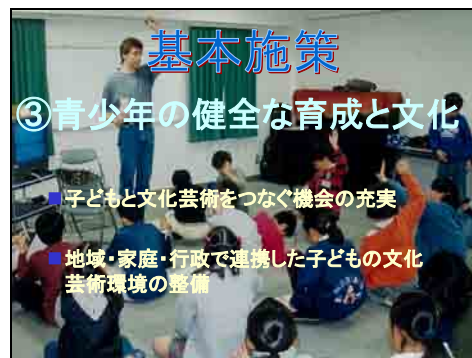
4 7

基本施策

- ② 歴史、伝統文化の継承

- 歴史文化の保存と活用
 - 玉川上水・野火止用水
 - 糴うどんに代表される食文化
 - お茶づくり
 - 竹細工
 - 民具
- 伝統芸能の継承と活用
 - 鈴木ばやし等

4 8



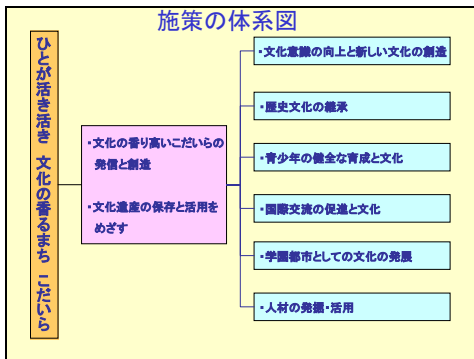
4 9



5 0



5 1



5 2

小平市文化振興財団のあり方 1

市民委員会の意見

- 営利よりも上質なサービスの提供
- 市民が育てる市民文化会館
- 文化水準の向上には時間が必要
- 文化の提供と公共性
- 文化のけん引役としての文化振興財団
- 担当部署の一本化

5 3

■小平市文化振興財団のあり方について 1

- 単純な労働提供と違い、文化施設の場合は、サービスの内容が違ふ、効率性のみを重視すると質の低下につながる。そのあたりを十分配慮しながら指定管理者を選定することが必要である。
- 市民文化会館は、営利を考へるのではなく、市民が育てる会館にすべきである。
- 文化自体は1年2年で結果が目に見えるものではない。文化振興財団が10年掛かって技術、人材を育てたように、街の文化の水準を高めるのも同じことがいえる。
- 文化振興財団が提供する文化というものが、民間になったときにどのように公共性が保たれるか。
- 文化振興財団はルネだけの管理運営ではなく、もっと幅広い文化事業を包括する中で文化振興財団そのものが力をつけ、小平市の文化を引っ張っていくべきである。
- 縦割りになっている担当部署を一本化できるものは一本化すべきである。

5 4

小平市文化振興財団のあり方 2

市民委員会の意見

- 民間経験者の確保
- 団塊世代の活用
- 事業運営に必要な人材の確保
- 適正な受益者負担
- 指定管理者が提供する文化の内容と選定基準

5 5

■小平市文化振興財団のあり方について 2

- 市の出向職員は徐々に減らし、民間で活躍してきた方のノウハウを活かす人材確保が今後必要である。
- 団塊の世代の優秀な方のノウハウを活用すべきである。
- 施設の管理だけではなく、文化を高めるには事業側も相当な人材が必要である。ルネこいだらには多額の維持管理費をかけていることから、適正な受益者負担を検討すべきである。
- 指定管理者の選定にあたっては効率性や経費を重視するのではなく、文化の内容も含んだもので選定すべきであり、施設管理と事業を含めたかたちで行うべきである。

5 6

まとめ

市民活動に欠かせない充実した文化施設の存在

さらなる文化振興に必要な取組み

- 効率的な管理運営及び適正な受益者負担など、文化施設の運用に改善の余地あり
- ルネを頂点とした小平の文化振興体制の構築
- 指定管理者制度と管理運営の改革
- 小平の独特な風土・歴史に育まれた文化をいかに次代へ引き継ぐか
- 移り住んで間もない市民や市外への小平のPRの必要

57

まとめ

小平市は、市民の文化活動の拠点である文化施設は充実している。しかし、ルネこだいらなどの文化施設には多額の維持管理費がかかっており、受益者負担の見地から使用料減額制度の見直しなど、施設の運営については改善の余地がある。

ルネこだいらを頂点とした小平の文化振興の体制を、どう整えていくかがこれからの課題である。

文化振興を考えた場合、縦割りになっている市の担当部署を一つの組織にすることが望ましい。小平市の文化振興の柱であるべき文化振興財団は、市民文化会館の運営だけでなく、もっと幅広い文化事業を包括すべきである。

指定管理者の選定については、文化振興が短期間で成果が表れるものではないことから、効率的な管理運営は重要であるとしてもそれによって文化の質の低下を招くような指定管理者を選定するのではなく、公共性、公益性をも考え併せ、施設の管理だけでなく事業部門も含めた多様な市民ニーズに対応できる指定管理者を選定すべきである。

小平の独特な風土、歴史に育まれた文化を次代を担う子どもたちどう引き継いでいくか、また新しく小平に移り住んだ市民や市外に向けてどう文化をPRし、発信していくかが課題である。

58

